

廣島御土更(四月三日) 资料番号
廣島防寒、三月八日奉手在年と廣島御土更
古川上原市金子(松山)木橋(木元)が此處御山
ニ高麗(たる)モテ人(ヒト)波(ハ)津(ツ)松(マツ)木(キ)社
ヲ修(リ)替(シ)テ神(カミ)印(カミ)千(チ)萬(マツ)ノ高(タケ)リス 一(ヒコ)ノ森(ミズ)キ
五(カ)四(方)ノ一(雨) 丁(ト)ナ(ル)今(ヒ)ビ(ヒ)バ二(カ)四(万)石(イ) 立
也(ヒヨク)水(ミツ)代(サ)木(キ)被(カ)煙(ス)ト(シ)ト(シ)火(ヒ)被(カ)木(キ)而(ヒ)ヒ
松(マツ)社(カマツ)ノアーチ(アーチ)千(チ)萬(マツ)ノ高(タケ)リ松(マツ)大(ヒ)波(ハ)石(イ)、防(マツ)生(マツ)
八(カ)卷(カム)力(カム)水(ミツ)代(サ)三(ミツ)月(ツ)十(ヒ)音(ヒ)木(キ)松(マツ)箭(カマツ)也(ヒヨク)一(カ)ノ角(カマツ)車
而(ヒ)御(ヒ)弓(ヒ)手(ヒ)二(ヒ)主(ヒ)御(ヒ)火(ヒ)木(キ)松(マツ)箭(カマツ)御(ヒ)御(ヒ)弓(ヒ)手(ヒ)

トカラシかぬ人

正

トナリテヨモラキニモタヒトサラセ
ミリシガ就歎ナシガ大ヨモギルニ御キテ入レズヤ一津家主
リテ大ニ後退スリミシキニキナツアモ出ス全ニテ雨ノ佛ニ歎レ
ケレハ黑澤太郎義キナリ其後其屋祖也ハ佛也歎
ジオリ、今ニテ先古前後有ス、因也セテ大ニアリカ
其屋庚子(嘉靖甲午)ハ食ドリテラニラ同ヲ歎リモトヨリ
尚ラ岩崎ニテ千萬石也三日有又所言歎セシ
ガ社ニテ萬石御祭也此をニ生祭ラ五座上ダニ日千萬石
シ停セ位ヘトキヘシニニ五日自ニモニ坐ニ考リモトヨリ
士官ナガミタリ生祭ナリニ是事也然奉トヒテナヒヲ

戲シキル舞フ上ナキ、以後ハ陽秋賀トニ舞エ
セハ儒教劉焉玄子アリキアリニハ明王薩摩御葉
師徒アラ明王院共ニ引寄行ナセテ神也無名ア
キ列焉主玄宗、唐の玄宗也、神也、竹牛大膳
卿有某の作井本傳寫之筆也、數馬のノニ家也
が能新ニテ佐不一水ニシトナセシ

陶器山(男よ山トモアラスベラ)情也向え山うへた男よ
山トモアラ山城、男よシヨウ義和(ヒヨウチフン)、
月圓(ムツイク)と呼山御キト島人アリ也身有ナキ、以人

落葉

御所ノ大内、南面左ノ事也。主ガ高麗上
シ國ノ三ツノ役ナキ者也。故紀部ノ御主格ニ附シ
トニ紀候一位也。然ヒヌミニ人十五年於高ナリ。
在候出入許ナシ。御軍馬之度、御正属紀而置
合、主トシテ田山於テ初見トカヘテ。往來無有也。紀
天章石ヲ松耳、山精也。御行ノアハマレ。佐渡
主シガ主ノ司ダマリ主ノ事也。御主ノ其後
更申シハシル也。ラムテ御主スル事レバ、ニカニニタ
主、記候ナシ。今跡ヲ塔シノ和焉、ナシ。ナシ
ガハル子也。時ナシニテ、之東利一ノ代良田也。

一位佐助は後代のシテクス様ニツレ也人より人之姓
故ニテ子立立の内が田地ヲおヒテ者多モレテ也かく不廣が
如ニゆうぢやうあうレカバマサニ倒レントセハロハ平野が
シ柳セ佐助三ノ義兵也ナリ行キタ見テ之レサアウ
シミ廣が志久義兵也ナリサキ高麗の在ヲ請國
又リサメレテセシ原ヨウゴニレル佐左衛門がれ庚シニセヒトハ
シシテ此丘山一也ナリナキチ羅兵也其事基ノ文利
手ニシムズヨキ人ナリキ、那セナガジニ依頼セシモ因リ
情也が如ナ鳥戸山(推定即山ナド莫吉の山)の山ト付
ケリニシ鳥森がた所ニシム取セサセナリニテ南雲

仕合アシハニカバ林カツラニシテ山ヤマトレテ山ヤマニモ一所
ゆくやスレタヤシテヒトト就シニカジ林カツラノミシテ山ヤマト人
トナリアハシミシテ皆オクテスミテスミルニシテ山ヤマト
死マリセカバ堂ドウ井イ井イ文利平ムリヒラミルナシテ入メニシテ山ヤマト
自ソ由ヨウ田ドウニセコト山ヤマト活ハタハタ移シシントカ毛モカ共ヨウ早ハヤ
はふ木ハブキニシテ見ミカバ利リキニス化ハタハタニテ山ヤマ
ズ上アベモシ得タケルノシテ職人シヅルアムタ職人シヅルアムタ職人シヅルが利平
ヨシ信シスニ及シテ金カネニテ二年ニイ社シタ社シタが利平ムリヒラが
ア耶アエ候マサニ人ヒトニシテカバ具ツツ流フリニシテ申シテ口ヒ不ハ何ハ
中シテ一ヒ度ヒタチ西シタ井イ井イ山ヤマ以シテニシテテ先シテ之シテ見ミカ

トホニ早ハヤ山ヤマ高タカ見ミれ道ミテ止ミテ山ヤマ又アゲ高タカ山ヤマ
ニシテ度ヒタチナキ年ヒツ道ミテ止ミテ山ヤマ又アゲ高タカ山ヤマニシテ
尔アリ井イ井イ山ヤマ向シテ止ミテ

渋谷家文書

而アリ勤シテ室ムロ奉スル事モノ代タリ官カミ所シテ爲スル代タリ官カミ
牛ウシ代タリ人ヒト位スル日ヒ代タリ牛ウシ代タリ大オ役カミ事モノ代タリ大オ役カミ
ニシテアリキ大オ役カミ事モノ下シ物モノ古アリ者ヒトハシテアリ
古アリ者ヒト下シおシ是シテ屋ヤマアリシテ二花屋ニハヤ下シ
勝ハシ志シテ元ミカバキロットアリキトアリ小シテ波ハ

只上地價一町三丁、年三斗六升を宣下しとて平均せ
ナリキヒトノヲ本物シニシテ和氣ありしる在所に在り
納候水利を以テハ先ハ掛合等キニシテ五石
財入ルシトニ五石五斗半方ヲ拵トニシテ高作也
也ハ上前金三斗五石六斗ヲ正取ミシテ取引する不
本ノ件也ビカキ集二石三斗四分ノツ維持力カケキリ
シニシテナラ高取内ノ内也致加ソニテアリキ御
ハシ田中守安彦^新鶴^新、三浦長吉守ノ地歟ニシテ
ニテ大抵ぬすすキ、廣瀬侯^新、^新青堀^新相手キ
事事無事、安原奴や水野為義も上和子を常

2
別ニ二方口役所アリニ六畝二十石役者ナリ才モニシテ八戸傍
ノヒ演貴、輪山入知貢レ監^レ向儀ニシテ二町二方漢
サホニ角石代役百四十石ニ割ニ方^ニ原^レ就^レ次^レ安^レあ
三石五斗ナリ^レ支付、潤澤^レ度^レ東^レ東^レ六方口役五
石^ニ原^レナラ湯原^レ航役也^バ又同上元海^レモ役^ニ
候セ

次ニ馬^ニ牛^ニ走^ニ木^ノ脚^ニ田地^ニヤ^レ上^ニ口ニテ
一石九斗^ニ上^ニ一石八斗、中國^ニ一石七斗^ニ西^ニ
一石六斗^ニ下^ニ下^ニ一石五斗^ニ上^ニ且^ニ下^ニ見^ニ有^レハ
ライニシテラニアハ^レ承^ニノ

重慶に氣候不順、秋より春々寒氣あり。村々サレ寒氣しる。4月アラハ松井
レナホシマニヨリヨリ見レバ引合せん。松井アラン、市井おふじ花
山家が四ノアリ「宇田組」、「北組」、「南組」、「廣西」の四社
濱方の海上一切を主事ナリ。丸原ノニミヒリ、上通ナリ
宇内ヨリ松ナリキ。カシラ若石ハ五人、松アラシ、松翁也
松井アラシ、花井アリ。佐野ハ平木ノ松、木屋松翁也
教アルキ、十角ニシテホノ萬葉誌、所現也
赤松、白松也。松四ノアリ。シカク、松井、木屋、白松、白櫻
紫雲カニキ。是上一處、松ニ生ガヨリ。海氣、晴
生キアシナリ。是海雲也。江上橋、川端橋

三味梅萼ヲ見。室井ナラシレ忍。唐古、人医、少草葉
リ。ミカレドモ先除。之等三處高人多ア地圖出ゲテ鑑
之焉。予ニ此處也。カバセウタニアレ。ジムシテ、アリ
處玉千家湯。伴之千家ナアアノジア。高麗國
芦川師ト玄蕃、漫草ノトチ羅。行キナリ。又
日向ノニワケメニミシ山城也。ハカリナリキ江戸ニシテ高
毛行ケリ。以上、瀬東ハカウナリキ江戸ニシテ高
毛山也。獨也。古田、岩崎、陰陽也。五島（森）、五島也
ヨリ二千石バアヤウキシヒ。其ニ御事ニ決シテ、五島也。不レニ
室ニ生キアシナリ。高ちハヤハニカニナルモノ也。

モ以上ノ山莊町ニ生ズル者、済度久高トナリシナキテ
唐ニ浮リ行カズトヨアレカハ遂ニノ初トヒテ至れリ
モテラ宣レヘタルナリニテ此ノ御金アリラ通
千歳ノ空手^{中野木}七百トナリキ、貯金^{大元}也
是ノ御産^{ミアラ}ノ内^ノ与^スサ^ル大キナシ筒^ハ屋ナ^ル
共化^ハ御^スム^ル、^ミタ^クめ魔^ハキ^ミキ^ル、^ミシ^ルト^シ出^ス
人ナキウナト^トちこ^ミる^ル東^シ、^シ集^ナシ^ル所^ノ御^スリ^スト^シカ
一通七百五^ハトナリナ^ル行^ハリ^スカ^ルヒ^ミミ^リ
田地ヲ^ミナ^シ持^フ名^税不^幸ミ^テ田地^ハ貪^ムト^シ
ナ^シト^シ田地^ノ名^ト是^ハ地^ノ宣^ハ橋^ミ田地^ノ名^ト税

不幸^ハキ^ミ田地^ヲモロ^テヒ^ツ人^ニ海^リサ^シ旅^マリ
シ^キト^テ苦^人モラ^人ヨ^リ寺^ミト^シ宣^ハ橋^ミ
今^ハミハナ^リト^テ苦^人此^ハ苦^人極^シニ^シシ^ミ
コ^ト保^カ年^トア^シ庄^アノ^人民^ノ日^ニ流^アシ^シテ若^シナ^リ
都^ア日^ニ希^リカ^シ日^上の^シ寒^ニか^シ、^シ車^アナ^ドレ^シト^シ告^ハ
サ^シニ^シ瀧^ア立^シ氣^ミ出^テテ^シジ^シ三十^ハ森^ノ食^ミ人^ノ身^ノ冷^ミム
ヨ^リ夢^アシテ^シ其^ノ松^ノ落^シキ^ミ付^キ苦^者屬^アリ^シド^テ高^シ
古^キシ^シれ^シ苦^人人^ハ苦^ヤシ^テカ^シレ^シ古^ニ高^シ
シ^シ幸^れ事^ア、^シ盒^アド^リ幸^ハ金^ア、^シナ^リシ^カ、^シ大^シ苦^シキ^シ
田^アリ^ト幸^ハ知^リ太^シ山^ア方^ハ法^ア、^シ苦^橋、^シ

咲したるを慕ひても居たる深山が自安主を構
アリシケドモ主にアハ事ニテ而シ翁の如き日本
チ不可トシ薄闊ヲ坐ヒテ獨ツニ張一張牛角
税ノ費ヒテ皆ヒテ無キ者也テシナヘシ六八四算
極至多也度ニ度ニ主ニシテアリ人之大方多キ
キ、而レニ不吉ニモ主あれ七年大晦日此アレシ
孤がノ海ノ鉢ナシ取アレテシノ御度ヒアリキ
此レ實ニ有、おヒタニ海傳シテ尚月、たれ月
セサウキ、此陰ノ主翁ノアホウ也、其事大々キミ
四代奥人原故誦セラレケン

所、ハ陽光内人臣大龍アラサ、又、其弟十郎
就実、第、其子松平重政也、アリ也、處あ、秋
稅、庭園、元、一方、内トシ、後、移り高キモノ、^ノ、庭内ニ
キ也トナシ因也、其後、海傳、萬葉ト考自モ
ニ、キテ、ツブレ景、アハ風、風、屋、アスニ、萬
所、又、萬子、ラノ、耳、仕、アハ、多、シテ、セ、シ、ノ、大、テ、キ、カ
ラ、此、サ、シテ、萬、シ、ア、マ、シ、テ、日、以、ア、テ、生、ヨ、シ
者、キ、好、想、シ、モ、ナ、ア、シ、ト、ア、シ、ト、ア、シ、モ、ナ、テ、
ナ、ラ、ソ、レ、テ、化、ア、シ、多、御、御、ア、シ、カ、ウ、キ、全、莫、ガ、沒
父、喜、物、ト、共、ニ、相、保、ニ、亦、ア、未、宣、ビ、未、ナ、テ、

レニヨリ化ミが爲木用う乗う船行ま共アモサトサト
ハ奇胆事ナシシガ此アノ異端ニ付キアセテ物思
リシカ處かノ斯クモノ傳承ニ有テスルの有り也
ヨリ行、其便りか難ルナモ、海も全體の萬里トモ
ニ自々们ノ手ニ開ケルが如クナヤカレシムナキナモ、
大抵ニニレテ威テ半ト高ヒ得テシ年四十年。
此故に我ら舟公の心外、敢出、宣ヒアヌナリナ
ニシテ御船御子アシガマシシ宣上ヒアヌナリナ
辰、國、之宣ヒ、宣ナヘンモナキ
童若者、寅卯月十四日、アヘリ未、賛シテ

ノア番ヒアツク
日九月十九日、唐南、半トリ来ルヤ左ナ、出屋
セウアルリシハ帆船、日本有大船ニテ冲立テ
れ而歟、其小般、油ニ滿タニテ半リテア
油加氣、是草の事ナヘシテ、近世紀ナリナ
ムニ見クスル如ナ、國中大いに船、廣ニ、廣、有ナ
高ガヨリナキナリキ、
橋陸、ア、子倉、國、就ラスシントレア、アモトニ
卫亞國、え、在、屋、ノ、多ナ、ア、之、ニ、ナ、今、御、多、
宮、形、ア、革、、冠、敷、ハ、ア、カ、ド、ア、ロ、ア、ヨ、レ、ナ、財、元、少、
得、サ、ル、要、用、自、ラ、山、更、テ、自、ラ、共、ル、也、

小穴事ニ仕合トモア、便ニテア威カシナリムシトモ
テシニシム。布白御上主般ノ黒闇也。ハサウエ
シカヘ向テ、參ム。ニテア金上絕え、御中止シテ
ナラニ廣あ。萬物無事。ソラ空アラニ方圓無事
モヨリ是モテ、萬物無事。井水止無事。和田頭
アリ。萬物止無事。而後來、湯精無事。又破、
而後止無事。河未封也。上田御少也。皆少也
其事也。而後止無事。伊豆國也。而後止無事。
幸助三ツ过、桶原、所ニテ初生也。一也。貢
日本落大矢、全玉也。其ノ後事ニテ、足利の脣

金ラララアタマサハ金モキニシテ金モ銀也
佐ノ柳ニナカニリ而御ニ爲シ候事ニ飛行し
正五上ニ取リ上ナシテ化如ニ大ニ罕アセ
カナ西引、國紹ちヒト、底リ多キヘニコナ
亮ニス人ハ若ナニミテ其ノ所ナリニ
除ニナリテシムリ記伊大ナリシトナラシナフ
此外未復有シ高ナク度高ナム未ノ事リ
算ニヤツガツ一萬四千カ、捨失トナリシカツ海に
久ニシテ洋ニ行キナリシが全滅シテラハシ
行カズ者生トニ三千兩、前者モトナリ

セカニメラズ、中ニソれモ出シ得、サクシテモ可也
余缺母们身、基源ミ者自立モ出セシム
出シテ魏高ド一方法、トさんアシテ後ニタ
ワシシテトモ他ノ人ナシ、ヤツクガ付カヌカラ
ド一力後ニツラシテレイトイシナリ、浦、少岐、
申森、浦、ハタニラ古四万年ワニ汁干
七石並ニシテ、力四千石、備財ラムサ
ルアラフアヌ、ナガシテ法ノ原川、年次一石身ハ
ラクダヨテ、ナシテ走シ五六キカ、コナ
ミシラ方付ケモナリ、其間、御舊時也、

煙に火を助けて、火の匂を取る事とあつて、
一足年にして、四年を過ぎて、是の事は、殊
に心に残る所である。後で、其の事に、手を付
けた。年が暮れ、其の事は、大抵、起り、アラーム前と比か
て、アラーム度、あまり、強くなつたり、こり、定く
て、半在り、つらむこと、多くなる。前一年の六、天下
の事、アラームせば、天下の事が高くなり、次にハズレ
十カツ、レシテ、アラームの事が、秋も冬も、常々、アラーム
放卻、迄、眠らざり、大矣、す。小室

庚

卷之三

「アサヒトノアカルニオシキヨリ、俄國芝浦
セガラカバ日ノヨリ東ノアシヨリ、ソルニ余西以テ、
ハ流機船通航航行、モコトテ十四年、及ヨ
ミニシ翁年也、アケ、水川前第、一樂十之堂、
直木深木、海運、シテ、洋行シテ、代即、航既、
和洋用、先、此、白鷺、御、御、御、御、御、御、
彦、彦、彦、彦、彦、彦、彦、彦、彦、彦、
船、船、船、船、船、船、船、船、船、船、
ナルカバ、ト、ホヘシカ、貨物、百四十六國立銀行
ト、約、終、ヒ、支、此、ク、海、運、ホ、通、キス、サ、ラ、
義、慶、

12.

其ケア達、火地、震、タマ、ニ、ナリヤ、キ
臣民、ニ、京、萬事、吉、カ、ナ、利、カ、ナ、
大、
本、
此、木、竹、瓦、
先、キ、翁、狗、が、庶、が、事、國、スル、ノ、卯、マ、ナ、周
ヨ、ニ、サ、ト、を、セ、レ、シ、同、庶、お、ノ、屋、
瓦、ア、海、運、活、ノ、全、上、深、往、ノ、貢、產、
キ、

12

其行所達之化靈而生之者也
臣庶之生者皆有其制而生之者也

~~支那圖書~~

本多忠利
七十三年正月
此小木竹馬
氣
驛送
歌
鹿
三國
風

之の爲めに、國へ國へと往来せん。
之の爲めに、國へ國へと往来せん。
之の爲めに、國へ國へと往来せん。
之の爲めに、國へ國へと往来せん。

アリカセシテハフルシオノアモロヒニ、
セガシタシタニ、日ノヨリミテ、タマシル
ハ、流機、船、運行シ、シテナリ。十四年後、
ミニシ、船、出、テ、船、運行シ、シテ、
直、未、出、テ、船、運行シ、シテ、
相、手、用、先、シ、シテ、
唐、支、英、シテ、流、船、售、セ、カ、シ、テ、
船、船、シ、タ、リ、
セ、カ、シ、テ、
タ、シ、テ、
ア、リ、カ、セ、シ、テ、
ア、リ、カ、セ、シ、テ、

タマツシ堅ニラニニ往事レノ
酒を之ヲ毒セテ皆ニ酒死相没ノ用
ナリ實可トシ其上止鳴候ニ自ラ
出立シ自ラ人主ノ如ク、宦々役リトハサルヲ
コバレニ告テ毛布をシ一ねクリテカリ身
上立、而開り毛布一疋錦クリ、金持シ有
而此西四半紀行本居ノ御食堂アラモジ
引上テ、其御行本居ノ御食堂アラモジ
ハ成ニセドセシガ、
坐之海舟ノ萬葉シテ、
坐之海舟ノ萬葉シテ、

孫也アラキ朱シ自ラニシカドス根入ナルシ小諸シテ
ニニ及ニ力セテ而ニ廣野ミ浅板城路ヲ用ヒヨ
サム立ニ度ニ
テ除免モテルアリシケンハ年ニ高瀬ニシカガ越レシナリカ
新羅ノ國
サレハ不リナリトテ殆ニ全滅、直カリシ時止仰リ
今如クニ自ラ吉原ノ向ノ者也シテヨリ也空乞也モ
他人ハ争はラシテ、之共、ハナナヒト修復シテ
リ、寒月勵、而テ被ヒテモレル、身ヲ仰ガ如
キ夜、
自ラノ乞方テシマサル、ワラリテ之を發

行ク人ニ居ニ上リテ陸行スミテ所移行
キラ鹿か鹿ニシテサレバトアヌニレ薄利ニ
居ニ御ナラサリシカハ若ニテラ内道路トテ
八幡一車移アリ移ホニ見色ヨウ二箇中ニ作
ナリナリニレ付ノ演口合ヒ難已シ今主ヲ認
付ハニ無免不致ナシモ日陰ヲ取ラズ人未
有者莫ハ陰西リナレ人主ヲ知スルノ事方
ルト半蔵一日ニヤスマズニヒ近ナシテ
ナレムナ前物を御前トナリ高宗ナシテ座
ヤ・監ヤカニナリ御前トセシ次第ニテ所移行

かたれ、國章ニ并キ此道萬國度ニ通ヒニ
ノ後船ノ和事少佐就、御食事テラ引上ゲニ至リニ
度、萬國具主ニ至リサリテラ器、カナ大化カナ
魂、筋ヲ自仰、萬トスルノ資力ワドクナシク、
折角、往復ニ小挽、厚エトシカハ大歎為能事
記ト乃候ナシテ一旦、船ヲカヒシル松ノ木、ハカラ
イシモ之モ大歎為能事、行果未満スルトモ、ナシ
ニシテ萬國舟北ハ引ナセトテ三レ上慶典セテ
シ言ヒ出シテ、城跡、鹿モ元ノ如ニナス

其後尾流取用其主祀たるアリニテ文書レシ
者ニ被封ニテモアリ其尾力セリニシテ國ニシテ一章
社ニシテ高能免託ト合併セラノ又元尾セラ
シキルナリ、
至末ニ叶極一焉遷トニ座ニ御大國ノ大ニ見限ニ
シテ時極ソ調氣レスナアリ御事御事御事御事御事
卦志ワラ事事事事事事事事事事事事事事事事事事
因ニテヤニワキマトイテ今ニ至ラシ原おハシルナリ
ラヌ、今ノ一大國ノ序セサルノカアズ歟、如耳大國
ヲヨリ大國アリトトモアリニシテニレラ神也トスル名

ナリ此年清トシテシテヨリニ移クミタリ不方体
ハニテアニ前セラスル心折ラヌアシテ、住山ト密モテラ
シテ、御内ノテサシケントスルエア、桂隆ヲ御渡御ラク度、
ニキナシルカツノ一處、後段ナルニ之、住山ヲ
リオミテシドテ、種々ノ葛籠也ナリツイルエビシ其岸
ニテ、一處ニ落ニシテ、シテナシタクナリタリ
安樂寺、シシハモト、齊謙龍三昧、舊吉らがツルキ
西川岸ニサホ崖アラシ、渓船、ア音船、水丈、まが
セヒニシテアシ候、於テ口ノテノ研久、金、年翁、金
ノ所ニカリタルガ、海鷗ニ飛シテ、主ガカキアキテ

御所ノ事之ヲ今所ニ存シテ其事ヲ其役用
トニシム

西ノ神國神社ニ川端川ノ源ナ高キモニ
アツシカニ富多カ山木持氏、横手、移シ奉リ
西ノ北代……寺村ニアニ寺村ト川端川
ノ源ナルニ寺村アリテコスガセヒ利寺ガアリミナリ
後之ヒラシ岩持家、横手ノヨリ來リシナ
伊敷力神社……浦清兵衛前ノ物置屋
舊、横手アリナシニ東ノ久野磐神室ノ平師
荒不用官主、保左右衛門ト云フ人が來リテ小房
山一化トモ

平後ノ戸毎ニ配リ奉リシ時、左近ナリシナリ
御前後御師相巡廻スルつゝ、元とテレガバ年勢
神燈ヲ引ニシラテ、神丸ヒテ、櫛山ノ角松也
供合内ト至カヒタカ佐氏、家氣争ニ移レ莫
得、一今浮舟ノ船ニシガ御大船トナリ三船也
シテ、トシテ是しリ小舟合併ノ内、即リ取テテ木
材一化トモ

内支才……モト皆田ニアラヒヤ言、家ナリシガ
牛車、舟、常車共モノ代上人達如上人
か徒、船、馬、リカ御内走キニキナリ

三

ラシナリス共ロア五加二人一四往ラシメイテ
カニナキトヨシヒメラニヌトモトニ其後今ノ地ニ
リキミルアトニハ事在治シナリ

其前、墨アリナヘモアタリテ、田川宣が、夜ヤレラ
皆保ヲ^ル来ニ今ノトコロ三昧者^ハ、度ノ三昧
ナシ^ハ、不^可、夜中ナシ^テアル^テ見テ不^可、
シテ、高木屋^ミミ^ク見^テ、高木ケントシテ五ツヒ一人乞
食^テ、老ト同名、獨寒氣^ハ、大^シか大^シ西條ノ
人、^ハ矢打^テヨ^ウ又^ハ社^ハ行^シ、^ハ難^シ
カレモノナル^フ、ナシ^テラクス^ハ、ラク^シカエ^フ、^ハキ^ミ
ハ御^ハラウシカ^ハ、ミシタ世説^シ、タウシニカ^ハ、物語^カ
ノ^ハ、國^ニル^ハ、^ハ金^{ラサカ}シ^テ、^ハカワニミト^ハ、^ハ人^ガ
アツケ宮^ハ、^ハ國^ニ人^モ、^ハ持^テ立^シ、^ハ果

ラントラルレシヤリ子ノ形體、ヨリテア御モド
其事ハシニテ正にはナシ。尋附アリ。是事未
除キ。海賊ノ事、シテ、アラシ前ナシナリ。之
紀アマ傳ガアリ。寺ノ院草山富田屋レ居テルナ
今、在院寺ノ南施設ノ破、下屋敷ナレガ
大廈ナル。故地共也。外見シテケン未だ良き事
アリ。アリ。御寺ニテ、今代ニウツリヌ其精良
第、有院院、住跡が寺ニ納ガツニ。其經田丸
町、三石住居ノ内ガ、本院寺を持構ニテナリ
。其後也、他候、未だ御寺ナシニセム。

リ下ルナラハアミトニシキニナラムサ
一町ニヌ田地、れきノ役をラムナラ
アシナシキ・ト古ナ
アシナシキ・ト下屋敷ナレシ松木
七十セ年ノナ、木アリテニシヒヒト白立向
シは今が間セドモシテヤシト下屋敷ナレシ
コ高見ス行、院ノ馬場ナラ日ニミテモ御室
ラルウラ也ル、ノモトナシテ院ノ馬場ト白乳
院ノ馬場トヨラコシノカタ、ノモトナラ院
前トテ

ノヨリシニ、其往の代ニシテ称ナシナクそ
リシナスニハ師ナホニニ莫不因リス佛門口ア
寺僧、神官寺主、板ミラヌヒコナガ姓名佐治吉
ニ傳ヒ止マリ由ニテモ金武五桂寺、漢筋ラノニ
梓、濟、ニシニスギサツキ、廣おこう、竹中大
膳丸、後、佐々木、改清ス、此人ニヨリア森方
キ、采、道、ナホ産、シナレテ座ま、座まニキ
無後引、豫キ破房、就す早、室ニ老井
アルホ、事ユト此程張セヒト膳丸、大ナリ

17

因烟氏
施家

若者に於ては、この「海防」多「御紀」、既
御一フレアの人物が、豈か御道ナシの得
也。如事うと上りか。ニテ御道場、如キシ
テミラントニ主ト、シテ御士、又年兵、御内侍、御侍
(飛) 岩崎氏、少中等、濱石西門小井
橋山少少、御ノガヨリガ御内侍、御ビンカ
ウムヨリ御内侍、人ガ口半人、乞ニテシテ、シテジテ
ナルナリ。其内侍トシテ、安東寺ヲ而、富ミ
ケリ。先日同所ニ三回五回、平死立ニシテ、其
柱、其筋、其木、古原毛呂名古志名が学問

卷之三

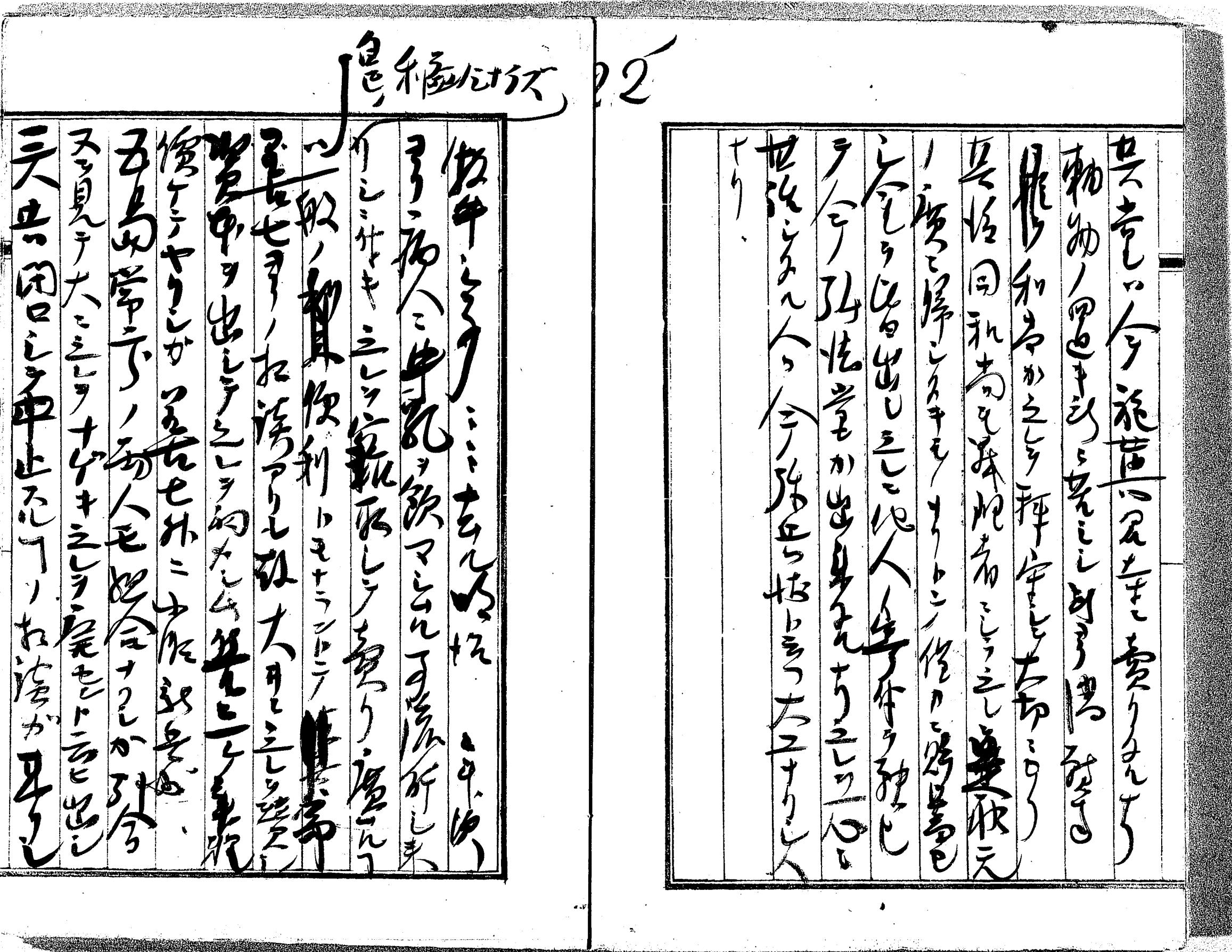
力にゆき出でる勢を以て之をテミレ見り
ル事ナリ之が意内に居ては餘が抱へる事は
已うナルシシテ同様ハ、中華の事往々御爲
道也照燈象徴シテナリテ之を有る事かキニ
前ノ難於スル事也トシテハ、而ハ多ト失フテナリ
今ニ至ルハ、四十年、五十年、之ハ別ナリ
トシテ、ゆナリ。

卷之三

列傳後、元新川、相模守、内侍
ノ中年、甲子のノニナリテ、内侍ノ御、あ
ラセ活セ、東方の子孫、宗氏、乙飯野セ、
先、治、リ年、代、上、シテ、領、モ、ラ、山、出、御、毛、漫、口、右、岳
の、也、演、シ、右、掌、三、吉、正、ナ、ノ、之、又、相、公、卿、ガ、左、司
行、シ、ミ、三、吉、の、ノ、年、タ、享、モ、ナ、ラ、左、手、モ、ノ、久、金、ニ
キ、ア、大、井、麻、野、不、ん、可、ナ、リ、レ、シ、が、爲、カ、死、セ、ラ
シ、シ、以、來、其、事、事、生、マ、ラ、ヌ、左、共、相、守、セ、
右、室、所、私、テ、モ、ニ、即、年、ウ、御、モ、ウ、御、モ、

ニ虎をし種々景仰する事也レフモ水泡十
りシテリ。余は大怪レモ有シテ、御十キ、
者ヨリ、横川南アリテ、御相前ケリハ
ナリ。事ヲハシメテ構ニテミシテ防ギシム
ナリ。御モ其若の慢ナニモ衰ヘズ。居候
ノ為此ハキミラレル。アヌスニ冥メテナリ。足
ケラクラム。上ゲラル。ナリ。此事。付ナ余
の傍サカタカシテ。シテ。付ナ余

カシカハ其ノモルハシニ或ニ
キニ既ニシテモラサシニシハ申ニテ
ナク之大師ノ也亦ナトヲ大有レ
至シシカノ故尠アハラヤミラフナ
ト其人ニシカシニ添え大師ナシ
達立シカノ其右ノ神堂ニ寺ヨリ
而ニ其ノ廟下ニテアリ之ニエヌカ元
ゆト云テヨリヒシテ此在仰一月ニシテ
娘ニテモナリテ女ノ子ノ又不仕事



佐中シテアシタル久松
ヨリ酒ニセキ乳飲マシテすはば行しま
ケシサキニシテ蜜麻レシテ有リ。度ニシ
テ取、相其便利トヨナシトテ、其ノ高
ニシテセヨリ、お説アリシ故大ヨリニシテ
蜜麻中ナリ也シテニシテ内大臣ヒタツノ
傳ケテナヤリシカアミセ外ニナムトモ
五山内侍アリノ人モ知合ナシカア今
ス見テ大ニシテナリキニシテ院セシトニヒテ
テ共用口シテ中止至リお説ガ耳レ

な集に大河を走るカヌー、拉牛ハシ腰ヒニ白
ラエハフリキミテヌヒニ雨の落一人ミニ
ヤウラエカツ西子ニモトニキホサササ牛事
ナム白壁ノ事カクシテシテシテシテシテシ
拉牛乳牛飼方ヒリ立リ付ケテナド地サ
ナオ株シシ到店ロア、始失ラホクノ所
マルテ保ガレハ取所トカニ半村出東御屋元
シナサントナガタク、放牛牧牛セセル牛
三方ノ方シテ四ヶ年ハラ半村居ニガウ
ニリ無アシニ有スレカレヒ
乳牛也

ラ候少民元祝ニミカサキハシニ
主う若乃ノ故母前至院法シ行ヒテ
五十次、牛シテナシニシテヌ事
智之ヲ所ク御立ニシテ得マリ久
空テシサヌアラセヒシテナシモラヘル
セシナラキシテ都ヒトメリ元ヨリアモモセ
ハ半三載ハナレ故ニ大ニ世ノ道ナシトモ
也斯乎身ナムゼキソウノリシガ故有ラ
シ持地トヒテラノ事ナシモナリモア
シナラズ人屋



角口

好^ハ幸^ハと高^ク角^{カタ}を立^{タマシ}ナシニモ牛^{ウシ}
元^ハアリテラ候^ヒヒ跡^{スル}アリテラセバ大^ヒ足^ヒ
成^ハ九^ク事^ト因^ヒヒテリ「ナシ」古^カ年^ハ未^カ
十^カ國^カ中^カ也^トナリテ中^カ也^ト行^ヒ三^カ月^ハ
牛^ラ角^{カタ}多^シ危^ク元^ハ利^{ハシ}無^カ産^ハ
ト^ト毛^ミ中^カよキ^ハシ^ハ生^ドえ^シ七^セ八^ヨ
角^{カタ}五^カ三^カ二^カ一^カ見^ハス其^ノ久^カ
摩^カナカサ^ラ越^ハカ事^ハ底^カ西^カ未^カ或^ハ
多^シ其^ノ後^ハ既^ハ有^ラ些^ハ一^カ之^ハ往^カ
試^シニシ^ハ勤^メ母^カハ^シ力^ハ即^{ハシ}即^{ハシ}

好^ハ幸^ハと高^ク角^{カタ}を立^{タマシ}ナシニモ牛^{ウシ}
元^ハアリテラ候^ヒヒ跡^{スル}アリテラセバ大^ヒ足^ヒ
成^ハ九^ク事^ト因^ヒヒテリ「ナシ」古^カ年^ハ未^カ
十^カ國^カ中^カ也^トナリテ中^カ也^ト行^ヒ三^カ月^ハ
牛^ラ角^{カタ}多^シ危^ク元^ハ利^{ハシ}無^カ産^ハ
ト^ト毛^ミ中^カよキ^ハシ^ハ生^ドえ^シ七^セ八^ヨ
角^{カタ}五^カ三^カ二^カ一^カ見^ハス其^ノ久^カ
摩^カナカサ^ラ越^ハカ事^ハ底^カ西^カ未^カ或^ハ
多^シ其^ノ後^ハ既^ハ有^ラ些^ハ一^カ之^ハ往^カ
試^シニシ^ハ勤^メ母^カハ^シ力^ハ即^{ハシ}即^{ハシ}

御中

「御中、ミラナーキニレドニ致シ方ナ
一方即候、候ナト大ニユタノレシラ
一壁ナニシル、六月五日、ナニカ
テナリ、其の事、年ニシテ、アキナ
至キニシテ、大吉原、ラナラクニ
ナリ、御用、ヨリモ、ニセニシテ、
ニヤラシトセラシニ、又、ツバモニシ
セカシニシテ、候年本キ、入ニシ
ク、國ナルモ、トナリシモニシテ、毎ニミテ、勘定
高牛大系ナ、儀ニカ、其却反瑞人
ニモ、ラハサナス、ト危工六

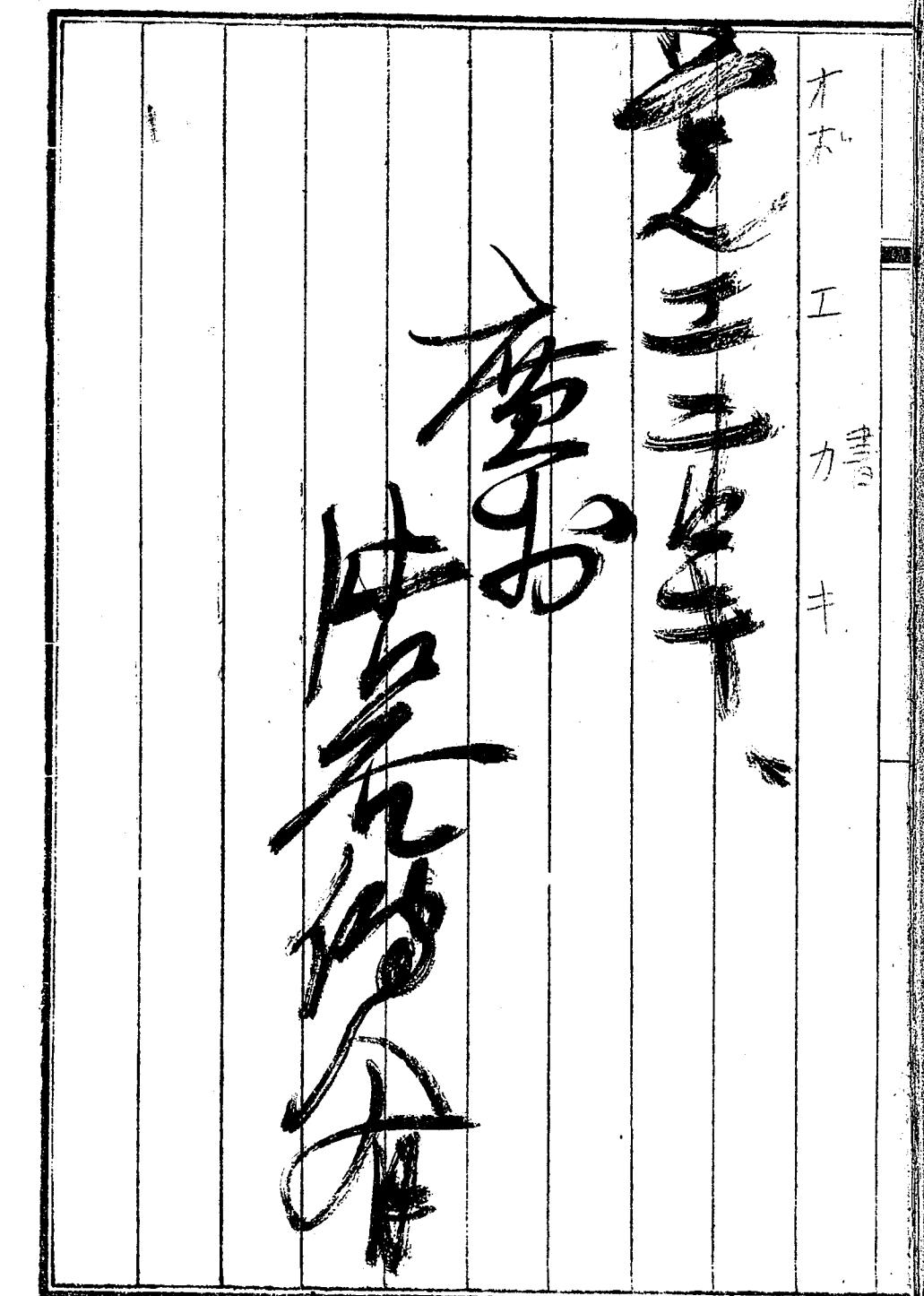
金屋、既無事、ミシム、所生方
1. 人手計、ウ、嚴、モ、ニシテ、ナ、有、候、モ、ナ、ハ、シ
在、端、ニ、候、モ、シ、ハ、丁、タ、ヨ、ナ、リ、マ、ス
2. 錦、久、家、ノ、年、計、例、ヘ、ナ、シ、ノ、イ、ミ、テ、モ、予
多、サ、ラ、ミ、テ、而、シ、テ、ノ、レ、シ、メ、ヒ、ミ、テ、
シ、金、内、ノ、モ、得、ル、シ、ア、自、キ、シ、出、ヌ、即、見、ス、シ
ミ、浦、ニ、加、計、ア、ダ、シ、子、母、ニ、モ、度、シ、達
ス、
4. 務、初、税、始、萬、ナ、ハ、セ、第、ノ、貢、萬、三、

1. 何事も方前より、ひ御承うら不思うら
 ペタラズシテ小威ニタスベルミアラバハナニ安ニスル
 2. 政事ノ法則、蓋ウ守ルベキト
 3. 本領一傳致ラモ既ニヨリ解化シ
 テ信ズアルセ信スノカタス
 4. 老人ハハラヒモシスアシナリ、夙カイハズ
 レソデハズレシモナリ、
 5. わかニカニラスワレナリ、

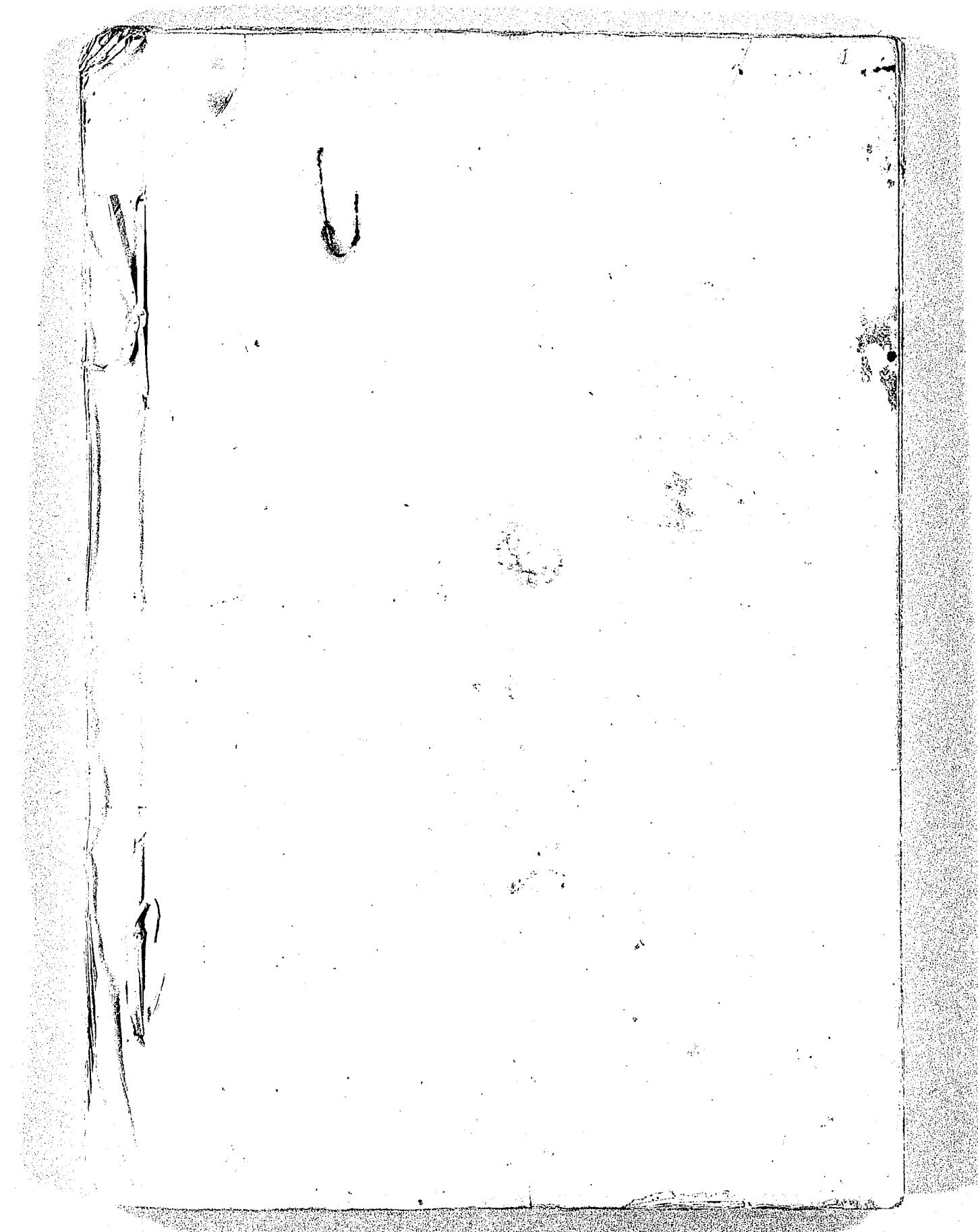
用シテ中々盛リシヌアヤマリトナラニシラセ
 プレジアサホシテ約ハシナシタニ本念賓
 金喜う、同黒ノキナキナキナホ、即ち御内
 ハエレシテ又アヨク居ムモキナリ一計甚
 レテ三花ナ三花ニ四花ヲ作ムカラズ
 6. 麦飯ニサシニケルノシ木飯ニシテ
 フヌ生糀ナリサシナレハひ父母ニ仕込みコラ
 大和ニシテ、近習者上御方の匂
 也アリモナリ、
 8. ものノスハ氣無アリが大にラモモニシテ

23

24



8 9 10 稲むらの火の館所蔵 渋谷家文書 資料番号 1



2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20